

三菱地所株式会社と本学は、連携協力に関する協定を締結しました。

～ まちづくり・観光・環境分野で産学連携、地域課題解決・地域活性化を促進 ～

2021年12月1日、三菱地所株式会社と本学は連携協力に関する協定を締結しました。

コロナ感染予防等のため協定調印式は、開催しませんでした。これにより東北信地域を中心とした県内の地域課題解決や地域活性化の促進に向け、連携協力に関する協定を締結いたしました。

今後、両者は産学連携して、まちづくり・観光・環境分野を中心に、将来を担う高度職業人の育成のための教育プログラムを実施するなど、長野県の学術教育研究の振興と人材育成への寄与を通じて、地域社会に貢献してまいります。

具体的には、2022年度以降に、①先進的都市開発やまちづくりに関する講座等の開講、②三菱地所株式会社が手掛ける都市開発プロジェクト等でのフィールドワークやインターンシップの実施、③先進的なまちづくり事例や事業スキームに関する共同研究や情報交換——等を実施する予定です。

長野大学は、今後も地域社会をフィールドに課題を発見・解決する力を養成する教育を実践し、地域社会や産業界から求められる人材を育成してまいります。

三菱地所は、今後も、地域の方々とともに地域課題の解決を図り、地域における新たな価値の創出と地球環境にも配慮した魅力あふれるまちづくりを通じて、真に価値ある社会の実現に貢献してまいります。

■連携協力に関する協定 概要

締結日：2021年12月1日

締結内容：・都市開発やまちづくりに関する講座等の開講

・都市開発プロジェクト等でのフィールドワークやインターンシップの実施

・まちづくりや事業スキームに関する共同研究や情報交換 ほか

今後の取組が期待されます。



社会福祉学部の片岡道有ゼミでは、全校読書会「泣いた赤おに」～親子で道德ワークショップを企画し、11月19日、上田市立北小学校において、児童450名、保護者・先生方250名と合わせて700名が参加する中で実施しました。

「泣いた赤おに」は、浜田廣介作で昭和・平成・令和と読み継がれている童話ですが、上田市の小学校で道德教材としても取り上げられている作品です。

ゼミの学生が朗読し、赤おにと青おにを男子学生が役割演技するという読書会のあとには、児童・保護者・先生方と学生が感想を交換しました。「赤おにさんから大切な友だちがいなくなって悲しい」、「友だちだからって演技でもぼかぼか殴るのはひどい」と言う子供たち。保護者からは「赤おにさんは後悔してるんじゃないかな」「大切な人をなくした」との感想を伺い、さらに先生方から「青おにこそ本当に大切な友だち」「探し出して欲しい」との声を聞きました。学生からも「人間の友だちを作らなくてもいいのに。目の前に本当の友だちがいる。」との意見が出ました。

そして、私たちは、赤おにさんの未来がどうなるのかを全員で考えました。小学校の体育館で、世代を超えて、立場を超えて、『本当に大切なものって何か』、互いの意見を交換することができました。最後に、青おに役、赤おに役の学生がこれまでの感想を聞いて、今の気持ちを会場の子供たち、そして大人に伝えました。

本当に大切なものとは何か。「泣いた赤おに」と再会し、向き合い、この問いに小学生も保護者も先生も学生もそれぞれの立場で考えた1時間でした。それは、本当に大切なものは何かをみんなで考える、『哲学』する時間のような気がしました。



当日の様子（北小学校）11月



当日の様子（まちなかキャンパスすうえだ）12月

また、12月17日には、まちなかきんぱすうえだにおいて、土屋市長と「泣いた赤おに」を読むin街かど読書会（市民講座「街かど読書会」）を開催しました。

読書会では、昭和・平成・令和と読み継がれている浜田廣介作の童話「泣いた赤おに」を取り上げ、大人になった市民と土屋上田市長・長野大学生と一緒に読み、感想や意見を交換します。赤おに、青おにの姿を通して、改めて自分の生き方や在り方を見つめ直すような素敵な機会になればいいなと思って企画しました。

土屋市長から意見交換の全体を踏まえて、「赤おにはもう少し良い方法を選ぶことができたんじゃないかな」「赤おにも青おにも誰もが幸せになれる選択があったはずだ」との感想を伺い、参加した市民・学生は「本当に大切な友だち」について考えを深めていきました。

今回の読書会に参加された方は20代から60代まで様々でしたが、世代を超えて、立場を超えて、互いの意見を交換することができました。最後に、青おに役、赤おに役の学生が今の気持ちを参加者全員に伝えました。1時間の読書会でしたが、まるでみんなで『哲学』する時間のような感じでした。

大人になった私たちが、子供の頃に読んだ作品と再会し、あらためて作品の深さや経験を積んだ自分の成長を感じる機会になれたのではないのでしょうか。

「田中ゼミと望月ゼミの活動をまちなかキャンパスうえだにて展示中」企業情報学部」

～ 小諸城3DCG 復元プロジェクトに関して ～

小諸城の3DCGアニメーション復元映像をまちなかキャンパスうえだにて展示中

本学企業情報学部の田中法博教授と望月宏祐准教授のゼミが取り組んできた「小諸城 3DCG 復元プロジェクト」の活動成果を3DCGアニメーション映像としてまちなかキャンパスうえだにて展示しています。

かつての小諸城の姿を史実に基づいてCG復元しました。

この復元CG映像は、城郭だけでなく、小諸城を特徴づけている「穴城」と呼ばれる地形や小諸城を取り囲む城下町も含めて、詳細な古文書や現地調査に基づいて作成されています。

歩道側から直接観ることができますので、お近くを通った方は小諸城の復元CGの映像をご覧ください。

展示期間：2022年3月14日（月）～3月31日（木）



3DCGアニメーションの展示ディスプレイとアニメーションの制作と復元を進めてきた望月ゼミの学生とゼミ教員（画像左側：田中、望月）記事：上段



土屋上田市長、益子先生と記念撮影（上田市日本遺産の市民報告会の様子）記事：下段

熊谷ゼミ「上田市日本遺産の調査結果を市民に広く報告」「環境ツーリズム学部」

熊谷圭介ゼミ「上田観光チーム」は、『レイラインがつなぐ太陽と大地の聖地』として日本遺産に認定された構成文化財や周辺環境・まちづくりの現況を調査し、その魅力と観光利用上の改善点等をまとめてきました。

その内容は、9/26に開催予定の上田市主催の日本遺産認定1周年記念シンポジウムで広く市民に報告する予定でしたが、残念ながらコロナ禍により、土屋市長や教育委員会関係者等関係者20名弱を対象にミニシンポジウムの形で当初の予定会場で報告を行いました。学生たちのプレゼンテーションの様子は、動画収録され、編集後上田市の行政チャンネル等で公開されています。

短時間ですが土屋市長とも懇談させていただき、また堂々たる報告ができましたので、地域協働型学習の成果を発信する機会となりました。<https://www.youtube.com/watch?v=n9a9n0gUGYk&t>

また9/30には、上記シンポジウムの基調講演者：益子輝之先生（郷土史研究家）に長野大学にお越しいただき、上田や日本遺産の魅力について語り合いました。この様子は、SBCラジオ番組「うえだぶらりさんぽ」（10/23、17：15～）で日本遺産シリーズの一環として放送され広く周知できました。

上田市「まちのアトリエ」のロゴマーク等学生がデザイン！「学生の活動」

12月24日、上田市役所本庁舎2階に、まちづくりに関わる個人や団体を紹介し、つないでいくと共に、市民の交流や憩い、情報収集などを目的とした空間「まちのアトリエ」がオープンし、記念式典が開催されました。

ロゴマークや紹介パネルの制作をデザイン同好会の「コトポート」の4名（企業情報学部3年岡田ういさん、同学部4年保田浩希さん、同学部3年鴨川里佳さん、同学部2年船本帆夏さん）が担当し、式典には代表して、岡田さんと保田さんが出席しました。

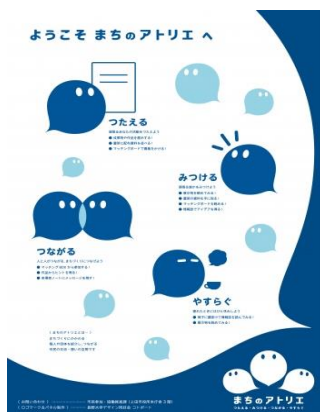
まちのアトリエには、イベント情報誌や市内中学校の活動報告が並ぶ書架、まちづくりの活動で得られた成果品等の展示棚、スタッフ募集や仲間づくりを支援するマッチングボックス等があり、椅子や机も設置され、個人や団体の目的に合わせて利用することができる空間となっています。

ロゴマーク等の制作は、上田市の担当職員の方々と打ち合わせを重ね、同好会内でも時間をかけて検討を行いました。決定したロゴマークは、おしゃべり・ひらめきをコンセプトとし、親しみやすい印象となっています。色は青を基調とし、まちのアトリエに設置されている椅子の緑色や桜色に青色のロゴマークを加えることで、さまざまな人が集うこと場であることを表現しました。

コトポート代表の岡田さんは「上田市のまちづくりに関わる場所のロゴマークとして採用していただき、とても光栄に思います。これまで自分の案が採用され、完成まで制作を続けることが無かったため、とても思い出深いものになりました。市役所の皆様には、何度も話し合いの時間を設けていただき本当に感謝しております。ありがとうございました。」と制作を終えての感想を話してくれました。



学生達がデザインし採用された案



長野大学地域づくり総合センター

〒386-1298 長野県上田市下之郷 658-1

TEL:0268-39-0007 Mail: renkei@nagano.ac.jp